



Weねっと



和歌山県介護支援専門員協会 西牟婁田辺支部
〒646-0028 田辺市高雄1丁目23-1
(田辺市田辺地域型地域包括支援センター内)

【106号】

令和5年度
6/8号

TEL 0739-26-9906 FAX 0739-25-3994
e-mail houkatu@city.tanabe.lg.jp

《令和5年度在宅医療・介護連携推進事業》

『認知症爆発の時代を迎える日本』

—愛する方達を守るにはどうすればいいのでしょうか—
講師：からし種在宅クリニック 「もの忘れ専門外来」
担当医 小野 道夫先生

令和5年11月28日(土) 14:00~17:00 和歌山県立情報交流センターBig-U多目的ホールで小野先生の講演会が開催されました。

2040年まで認知症高齢者が増えると言われて日本において、様々な課題があるなかで、認知症を正しく理解し家族を守るためにはどうしたら良いか。思いやりを持ち支え合う町を創るためにはどうしたら良いかに重点をあて講義をいただきました。要介護状態になる原因は、生活習慣病でそのなかでも最も多い要因が認知症となっています。しかし、認知症は高血圧症や糖尿病のように医療での関わりだけで完結できるものではなく、医療と介護の両方の側面から支え、また、介護者が倒れないようにすることが大切とのことでした。認知症は、「聞いて、見て、触ってすぐ分かる」として、診察室に座り腕組をすればピック病や手でOKサインから狐のマークを作ることができなかったらアルツハイマー型認知症など面白い内容となっていました。また、認知症と言っても、治るもの忘れを見逃さないようにすることも大切ですが、純粋なアルツハイマー型認知症は凄く少なく、ほとんどの認知症が混合型認知症で薬の使い方も非常に重要な要素となっていることなどは大変勉強になる内容となりました。そして、関わる家族、介護者からの情報提供や主治医と対等に話し合うことのできる認知症への知識を深めることが大切との話が印象に残りました。

認知症爆発の日本を支えるために生活習慣病と向き合い認知症の予防をして、認知症になっても、治療と介護のために身体(脳)の痛み、心(感情)の痛み、霊(尊厳)の痛み、社会的な痛みに応える・傾聴する、家族や周りが困っている症状をなおし、居心地のいい家庭や孤立させない町作りに取り組み、全人的ケアのために認知症の方に関わる医療や介護関係者、近隣住民や市町などのサポートが重要とまとめられました。

《インタビュー》

・利用者に関わっていくと、色々な症状がでて内服治療となるため薬が増えていく。今、内服している薬が本当にその人に必要なのか、他職種と一緒に考え直していきたいと思いました。また、認知症と一括りにするのではなく、どんな症状・様子が観られるのか観察することの重要性を実感しました。 医療職(女性/看護師歴7年)

■定例研修会(訪問看護ステーションとの共催事業)

“西牟婁田辺支部”で

検索

内容：訪問看護事業所とケアマネジャーの関わり方 ~より良い支援を求めて~

日時：令和5年12月9日(土) 10:00~12:00

場所：田辺市民総合センター4階 交流ホール

参加費：無料

※参加申し込み締め切りは過ぎていますが、ご希望の方は相談いただければとのことです。



事務連絡

◆Weねっとをはじめとする事務局からの連絡事項は、原則FAXにて行ないます。
その際、以前に送付確認させて頂いた宛先(事業所等)に送信いたしますので、その後は確実にそれぞれの会員のお手元に届くよう事業所内でご配慮お願いいたします。※送付先変更等は随時、お知らせください。

※たくさんの方が会員になっていただくことで、協会の運営基盤が強化され、研修開催や意見の発信をしていく等の活動が支えられています。お近くに、入会されていない介護支援専門員さんがおられましたら、入会の声掛け、よろしくお祈りします

(10月31日現在 西牟婁田辺支部会員数 181人)